

高校生に対する心肺蘇生法を習得するための 効果的な学習指導過程の開発

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 養護教育実践系

氏名 (北川 瑠菜)

【目的】 高校1年生が心肺蘇生法を習得するための学習指導過程を開発するために、座学と実習を組み合わせた2単位時間の学習指導過程を作成して検証授業を行い、授業前後で知識と態度の変化について検証することを目的とした。

【方法】 A 高等学校 136 名を対象に、保健体育科の科目保健において座学の授業と胸骨圧迫実習を実施した。授業前後に知識テストや Classi を使用した意欲・態度、授業後には授業の評価票(山田ら, 2018)を用いて評価を行った。

【結果】 知識テストを授業前後で比較したところ、平均点が 6.6 点から 8.9 点に上昇した。態度に関する調査を授業前後で比較したところ、多くの項目で有意な上昇がみられた。特に上昇が高かったのが「目の前で人が倒れたら心臓マッサージや AED を使った応急手当ができますか」で 46%から 93%であった。授業の評価項目で「心肺蘇生法についての授業を受け、知識や技能を身に付けることができましたか」という質問に対して肯定的な回答を示した生徒は 99%と高かった。

【結論】 今回実施した座学と実習を組み合わせた心肺蘇生法を習得させる授業が生徒の知識と態度の習得にある程度の効果が認められた。